

中央環境審議会水環境部会排水規制等専門委員会（第11回）  
【参考資料より抜粋】

表 11-1. 排水処理技術とその概要（1,4-ジオキサン）

排水処理技術	原理	適用性	検証事例
オゾン処理	水中でオゾンとの化学反応を生じさせることにより、生分解可能な物質へと分解する。	浄化効果が確認されている。ただし、高度な処理施設が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,4-ジオキサンを含む排水（0.0003mg/L～0.001mg/l）が流入する浄水場高度浄水処理系（オゾン処理）の除去率は50%程度であった。(①)</li> </ul> 処理条件： 中オゾン注入率 0.5mg/L（接触時間4分）、 後オゾン注入率 1.0mg/L（接触時間40分） <ul style="list-style-type: none"> <li>室内実験で、河川水凝集沈殿水に0.004mg/Lとなるように1,4-ジオキサンを添加し、オゾン処理を実施すると除去率は10～30%であった。(①)</li> </ul> 処理条件： 中オゾン注入率 0.5mg/L（接触時間不明）、 後オゾン注入率 1.0mg/L（接触時間不明） <ul style="list-style-type: none"> <li>実験室規模で低濃度（5mg/L）における除去率は60%以下、高濃度（100mg/L）における除去率は40%以下であった。(②)</li> </ul> 処理条件：オゾン注入率 15mg/L（接触時間120分）
活性炭吸着	排水中の成分を活性炭に吸着させて排水から除去する。（有機塩素系化合物の除去に利用されている。）	1,4-ジオキサンは他物質と比較して活性炭吸着率が低い。また、吸着した後の活性炭を処理することが必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>精製水に1,4-ジオキサン濃度が20mg/Lとなるよう調整した試料に対する吸着実験の、除去率は20～30%程度であった。(③)</li> </ul> 活性炭投入量：1g/L（接触時間240分） <ul style="list-style-type: none"> <li>1,4-ジオキサンを含む排水（0.0051mg/l程度）を5ppmの粉末活性炭処理、GAC（粒状活性炭）では除去効果が得られなかった。(①)</li> </ul> 活性炭投入量：5mg/L（接触時間不明） <ul style="list-style-type: none"> <li>活性炭処理等の従来技術ではほとんど処理されない。(④)</li> </ul> 活性炭投入量：不明

排水処理技術	原理	適用性	検証事例
生物活性炭	活性炭の吸着機能と活性炭に付着した微生物の有機物分解機能の相互作用により有機物を分解除去。	浄化効果が高い。効果は付着生物作用に起因するため、活性炭処理よりも長持ちする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物浸出水を 1 年間処理してきた生物活性炭を用いた現場小規模実験施設で、廃棄物浸出水の 1,4-ジオキサン濃度を 100mg/L とした試料の分解率は 69%を示した。(⑤) 活性炭投入量：不明（接触時間：24 h）</li> <li>・ 1,4-ジオキサンを（0.0008mg/L）含む最終処分場浸出水を用いた室内実験では、24 時間で 90%以上の除去率が得られた。(⑥) 活性炭投入量：約 50 g/L（接触時間：24 h）</li> </ul>
活性汚泥	活性汚泥を形成する微生物群の代謝機能により、有機物を酸化及び同化	広く一般的に使用される処理法であるが、除去率はあまり高くない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1,4-ジオキサンを含む（0.003mg/L 程度）下水処理場での調査結果では、48 時間で除去率は 8.5%程度であった。(⑦) 計画滞留時間：22 h</li> </ul>
膜処理	懸濁物質や、溶解物質等の様々なサイズの不純物を膜で分離・除去	除去効率は高いが、高度な処理設備が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベンチスケールの室内実験設備にて 1,4-ジオキサンを含む（76.7mg/L）試料を逆浸透膜でろ過すると概ね 90%程度の除去率が得られた。(⑧) 諸条件：不明</li> </ul>
ろ過	ろ過：砂やアンソライトをろ材として粒子間に立体的に浮遊物を捕捉。	溶解性物質に対しては浄化効果が低い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 砂ろ過、加圧浮上分離、凝集沈殿処理ではほとんど除去できない(⑨) 諸条件：不明</li> <li>・ 複数浄水場を調査した結果、1,4-ジオキサンを含む（～0.2mg/L）原水を凝集沈殿—急速ろ過した結果の平均除去率は1.2%程度であった。(⑩) 諸条件：不明</li> </ul>
浮上分離	浮上分離：浮遊物に気泡を付着させ浮上分離し除去。		
凝集沈殿処理	凝集沈殿：凝集剤により懸濁物質を粗大化させて沈殿除去。		

排水処理技術	原理	適用性	検証事例
その他 (酸化、吸着など)	酸化:酸化剤(過酸化水素、塩素)などを用いて分解する方法。 吸着:キレート樹脂を使用して水中の汚濁物を吸着除去。	過酸化酸素と鉄を用いたフェントン法で高い除去率が観測されたが、薬剤費を要する上に、発生汚泥量が多い。 キレート吸着は除去効果が低い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場小規模実験施設を用い、廃棄物浸出水(1,4-ジオキサン濃度不明)を対象にフェントン法を実施すると除去率は99%であった。(⑤) 諸条件:不明</li> <li>浄水場で1,4-ジオキサンを含む原水(〜0.00002mg/L)を塩素処理したが、除去効果は見られなかった。(⑩) 諸条件:不明</li> <li>1,4-ジオキサンを含む(0.0006mg/L)排水を事業場で凝集沈殿-キレート吸着では処理を行ったところ、除去率は16%に止まった。(④) 諸条件:不明</li> </ul>

出典:

- ・「新・公害防止の技術と法規 2008 水質編Ⅱ」(公害防止の技術と法規 編集委員会)
- ・「化学物質の初期リスク評価書」(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・「詳細リスク評価書シリーズ 2 1,4-ジオキサン」(NEDO 技術開発機構、産総研化学物質リスク管理研究センター)
- ・「水質基準の見直しにおける検討概要(平成15年4月 厚生科学審議会・生活環境水道部会・水質管理専門委員会)」
- ・「1,4-ジオキサンの水源での実態及び高度上水処理における挙動について」(宮田・塩出、2004、水道協会雑誌 73(4): 2-10 (①))
- ・「1,4-ジオキサン含有排水のオゾン処理」(森田、2005、化学と工業 79(9):408-414) (②)
- ・「活性炭による1,4-ジオキサン除去」(久保・藤田、2005、香川県環境保健研究センター所報 4:188-190) (③)
- ・「1,4-ジオキサンおよび界面活性剤の事業所からの排出実態」(庄司・安部、2001、用水と排水 43(12):1046-1052) (④)
- ・「廃棄物埋立地浸出水等に含有される微量化学物質ジベンゾフラン、1,4-ジオキサンなどの高度処理」(稲森他、1999、用水と廃水) (⑤)
- ・「1,4-ジオキサンの生物学的処理特性」(三好益美、2009、香川県環境保健センター所報) (⑥)
- ・「1,4-ジオキサンの下水処理場における除去率について」(牧野良治、2005、水環境学会誌) (⑦)
- ・「膜分離法によるジオキサン含有排水の高次処理」(森田美幸、2004、科学と工業) (⑧)
- ・「DISTRIBUTION OF 1,4-DIOXANE IN RELATION TO POSSIBLE SOURCES IN THE WATER ENVIRONMENT」(安部明美、1999、Science of the Total Environment) (⑨)
- ・「大阪府内水道水源および淀川水系における1,4-ジオキサンレベルの実態調査」(高木、2006、環境化学) (⑩)
- ・「1,4-ジオキサンのオゾン処理における挙動」(宮田雅典、2001、造水技術) (⑪)